

【介護予防・日常生活圏域二一ズ調査】(概要)

① 調査対象

65歳以上の要支援者、総合事業対象者及び一般高齢者 3,500人

③ 調査期間

令和5年4月20日～令和5年5月20日

④ 調査方法

郵送配付・郵送回収方式

⑤ 回収状況

実施年	調査数	回収数	回収率
令和5年(2023年)	3,500人	2,352人	67.2パーセント
令和2年(2020年)	3,500人	2,500人	71.4パーセント
比較(2023年-2020年)	0人	▲148人	▲4.2ポイント

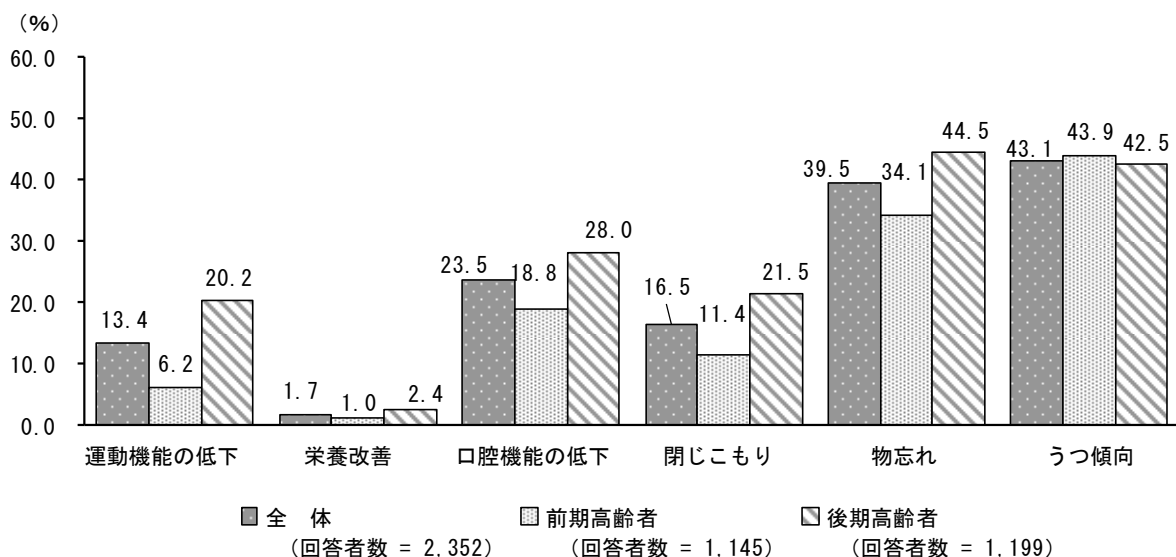
全体	男性	女性	前期高齢者	後期高齢者	志津北部	志津南部	臼井・千代田	佐倉	根郷・和田・弥富
2,352	1,104	1,240	1,145	1,199	489	459	488	439	469

⑥ 分析結果

○ 高齢者の各リスクの割合

リスク評価は、全体では、「うつ傾向」の割合が43.1%と最も高く、前回調査に比べ4.3ポイント減少しています。次いで「物忘れ」が39.5%となっています。

前期高齢者では、「うつ傾向」の割合が43.9%と最も高くなっています。また、後期高齢者では、「うつ傾向」の割合が42.5%、「物忘れ」の割合が44.5%と4割を超え、他のリスクと比べて高くなっています。

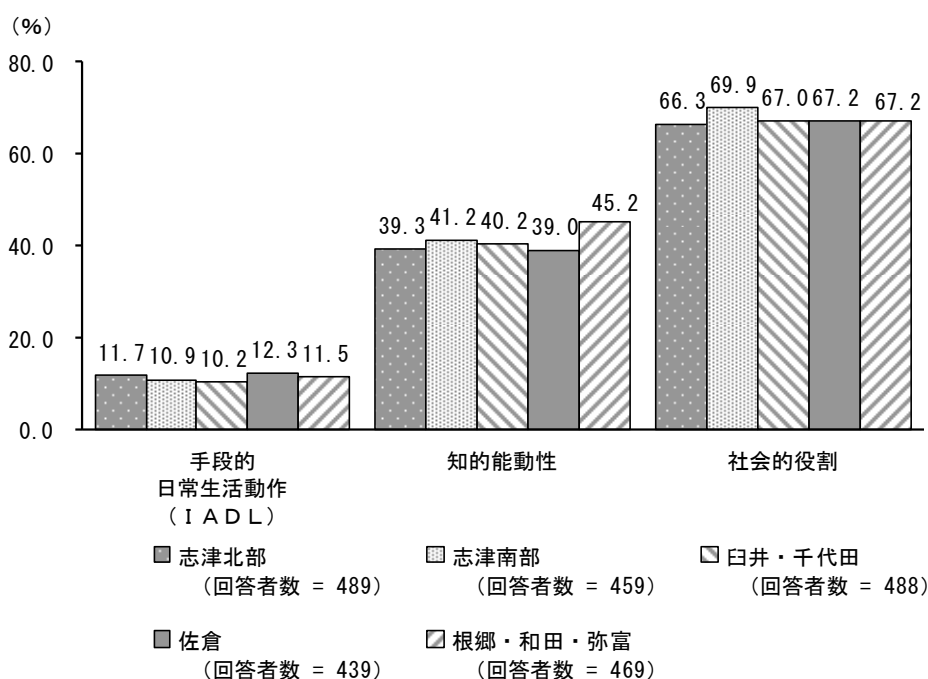
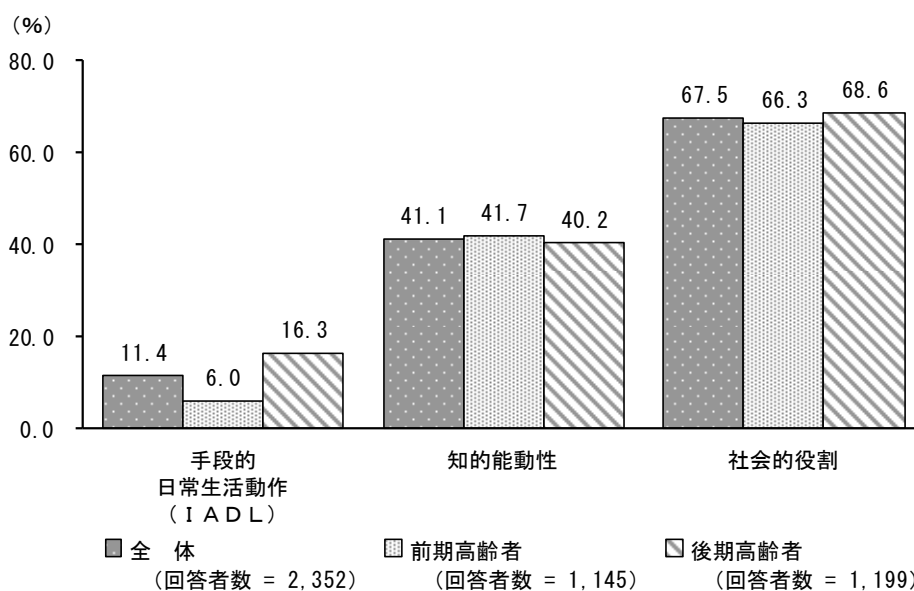


○ 活動能力指標によるリスク評価

全体では、「IADL」（公共交通機関の利用や、日常の買い物、食事の用意、請求書の支払い、預貯金の出し入れ等の高度な日常生活動作）が低下している人は11.4%、情報を集めて処理する「知的能動性」が低下は41.1%、他人との交流など社会参加する「社会的役割」が低下は67.5%となっています。

年代別では、後期高齢者が「手段的日常生活動作」で10.3ポイント、前期高齢者より高くなっています。

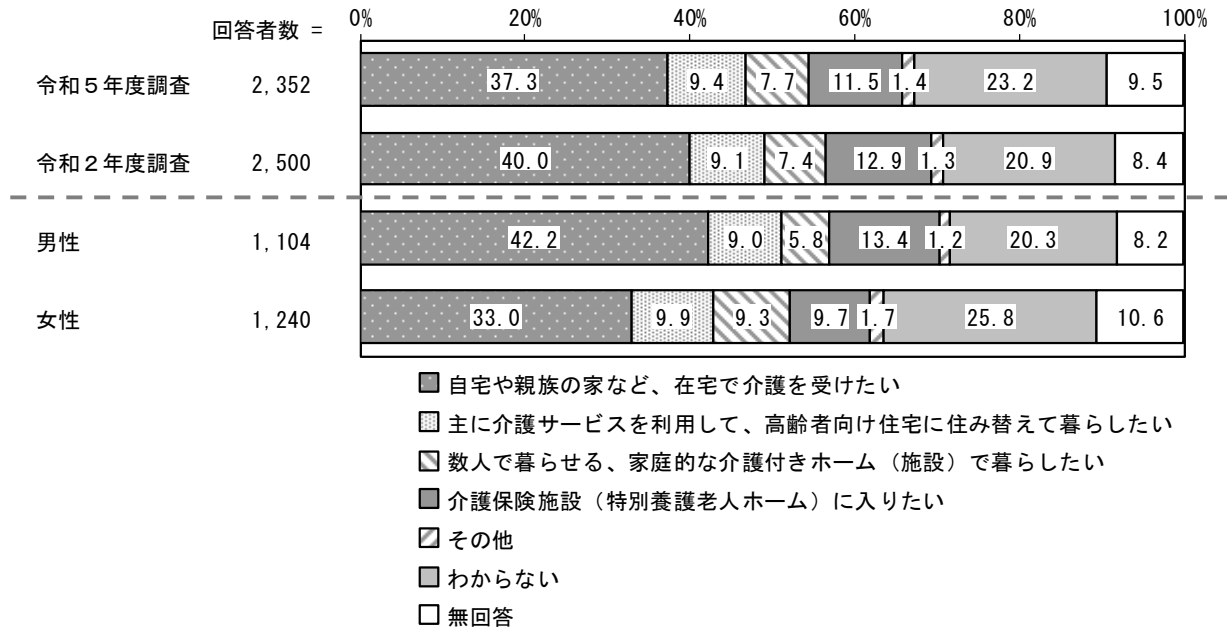
日常生活圏域別で見ると、5圏域ともに全体とほぼ同様の傾向を示しており、圏域による大きな差異はみられません。



◆ 佐倉市独自の設問から

○ 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか

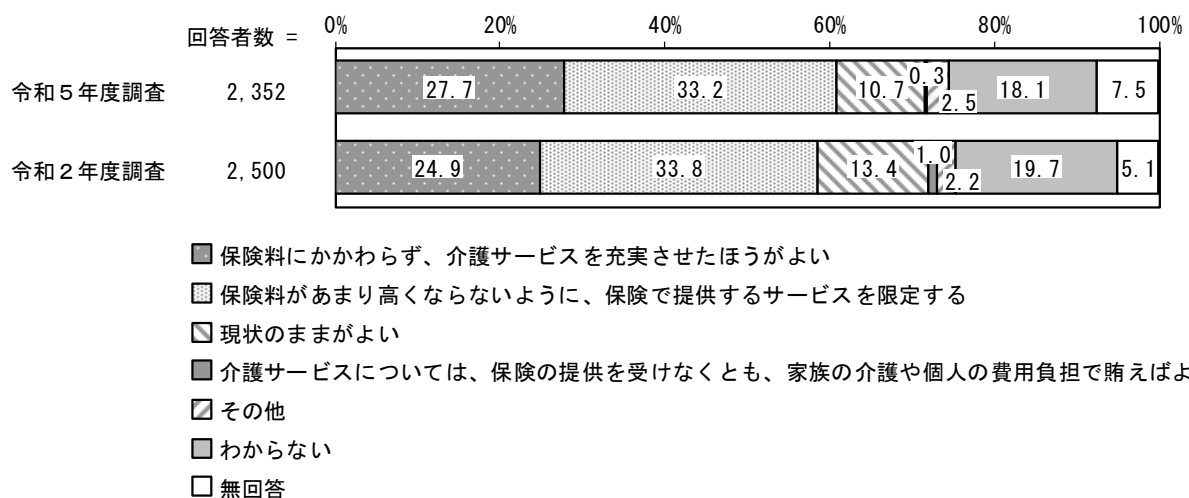
全体の最多は「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」の37.3%ですが、前回調査に比べると2.7ポイント減少しています。男性では42.2%、女性では33.0%で、それぞれで最多となっています。



○ 保険料負担と介護保険サービス（佐倉市独自の設問）

「保険料があまり高くないように、保険で提供するサービスを限定する」が最多で33.2%となっており、令和2年度調査（33.8%）とほぼ同様の割合となっています。

「保険料にかかわらず、介護サービスを充実させたほうがよい」は27.7%ですが、「保険料があまり高くないように、保険で提供するサービスを限定する」33.2%と「現状のままだがよい」10.7%、の合計は43.9%となっており、令和2年度よりも減少しています。

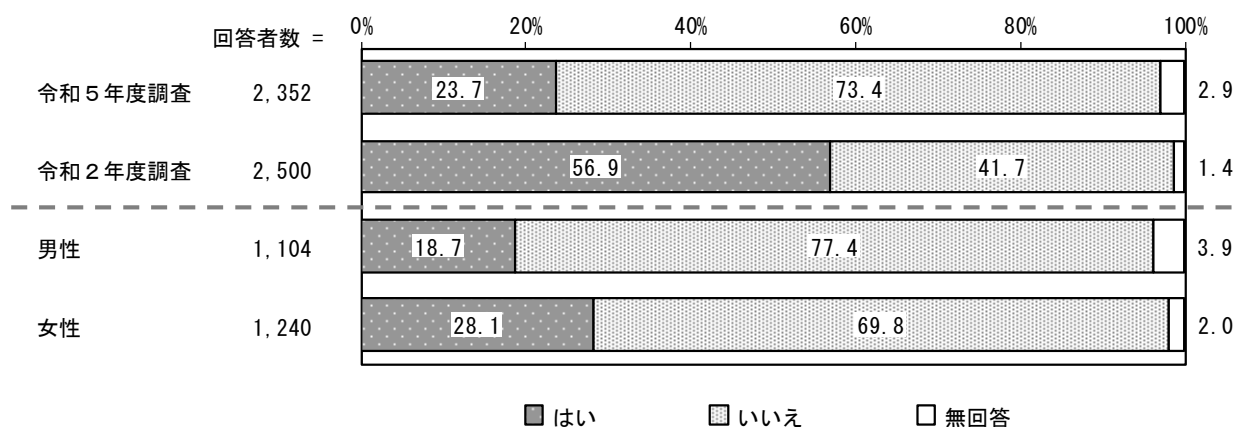


◆ 新型コロナウイルス感染症流行の影響

今回の調査期間中には、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、外出の傾向がどうなったのか、例を挙げて検討します。

○ 外出を控えていますか

外出を控えている人は 23.7%ですが、前回の 56.9%に比べて半分以上となっています。また、外出を控えていない人は、前回 41.7%が今回は 73.4%と大幅に増加しています。これらは、新型コロナウイルス感染症による外出自粛をしなくなった人が多いことを示しています。



○ この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがありますか

全体では、「はい」40.8%、「いいえ」55.3%で、前回調査と比べると「はい」が 2.6 ポイント減少し、「いいえ」が 1.6 ポイント減少と、大きな変化は見られません。新型コロナウイルス対策による外出自粛が少なくなったとはいえ、感染症への不安感とまだまだ高齢者の活動が減少していることが影響していると思われます。この設問は、1ページの「高齢者の各リスクの割合」の「うつ傾向」とリンクしています。

男女別では、男性の「はい」が 35.8%に対し、女性は 45.3%と男性より 9.5 ポイント高くなっています。

要支援度別では、一般高齢者の「はい」39.9%に対し、要支援1は 55.6%、要支援2は 55.1%と高くなっています。

